

きのこ どんな子 ふしぎな子

— 小学生ときのこをつなぐ活動 —

前川啓二・高木嘉雄・藤原達也（江戸川区子ども未来館）

はじめに

東京都江戸川区にある「子ども未来館」は、小学生を対象とした社会教育施設である（図1）。当館のスタッフおよび大学・研究機関に属する研究者を講師として自然科学の体験的学習を展開している（図2と3）。



図1 子ども未来館の外観

われわれは、生物学への関心を涵養するのに好適な素材としてのきのこに着目し、これまで機会をみてはきのこをテーマとしたプログラムを立案・実施してその形質や生活戦略のおもしろさを伝えてきた。

以下に、2018年に当館で実施したいくつかのきのこプログラムについて報告したい。

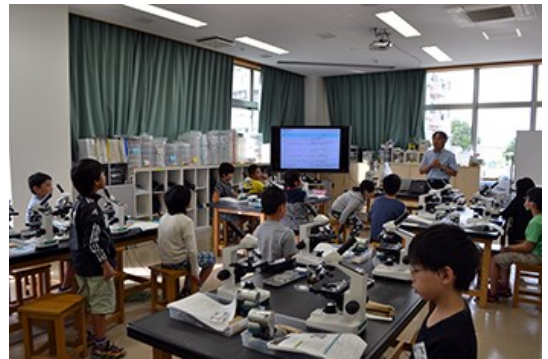


図2 実習のようす①（顕微鏡観察技術）



図3 実習のようす②（干潟のベントス採集）

小学生にきのこをどう持ちこむか

都市部の小学生にとってきのこは、公園や緑地になんとなく出現してなんとなく消えていく一見とらえどころがない存在である。しかし、彼らは江戸川区のような都市型環境でも彼ら自身の生活圏内でいろいろなきの

こを見かけており、それが生育環境との柔軟なやり取りをとおして現れた生物であることにもう一步で気づくところまできている。その地点から科学的理解の地平につないでいくのはひとえに講師のセンスにかかり、展開の方法の質が問われる。

小学生ときのことのもうひとつの身近な出会いは給食であろう。給食では意外と思えるほど食材としてきのこが重宝がられている。図4はある江戸川区立小学校の2018年8・9月の献立表であるが、シイタケ、ブナシメジ、エノキタケが頻出していることが読みとれる。

このような事情をベースに、対象学年に合わせて内容の軽重を吟味し、館内外の活動に「きのこのこ学」を導入している。

日	献立
28月	にんにく、しょうがたまねぎにんじん、かぼちゃ、ピーマン、なす、キャベツ、きゅうり、コーン、バナナ
29火	しょうがねぎにんじん、 <u>しいたけ</u> 、グリーンピース、パセリ、さやいんげん、 <u>えのきたけ</u> 、 <u>はくさい</u> 、ちりめん、ごま、つな、スロップ
30水	ごぼう、しょうが、 <u>ほししいたけ</u> 、 <u>しいたけ</u> 、にんじん、 <u>たけのこ</u> 、 <u>とうがら</u> 、えだまめ、オレンジ
31木	にんにく、たまねぎ、ちりめん、キャベツ、ごま、つな、にんじん、コーン、レモン、なす、 <u>えのきたけ</u> 、 <u>しょうが</u> 、 <u>オレンジ</u>
1金	しょうがにんにく、たまねぎにんじん、 <u>ほししいたけ</u> 、 <u>グリーンピース</u> 、 <u>キャベツ</u> 、ちりめん、きゅうり、 <u>とうがら</u> 、 <u>えのきたけ</u> 、ねぎ、ずいか
4月	<u>ほししいたけ</u> 、 <u>にんじん</u> 、 <u>たけのこ</u> 、 <u>たまねぎ</u> 、 <u>えのきたけ</u> 、 <u>キャベツ</u> 、ちりめん、ごま、つな、さやいんげん、ごぼう、にんにく
5火	しょうが、ねぎ、ちりめん、ごま、つな、にんじん、コーン、 <u>はくさい</u> 、 <u>えのきたけ</u> 、まいたけ
6水	ごぼう、にんじん、 <u>ほししいたけ</u> 、 <u>たけのこ</u> 、 <u>キャベツ</u> 、ちりめん、さやいんげん、パプリカ、コーン、だいこん、ねぎ
7	ねぎにんにく、セロリ、かぼちゃ、たまねぎ、にんじん、 <u>エリンギ</u> 、 <u>キャベツ</u> 、ごま、つな

図4 給食の献立表の一部



図5 パネルに見入る



図6 手にしているのは講師が執筆された冊子「きのこの教え」

当日は6年前に東北地方太平洋沖地震が発生した日にあたり、犠牲者を悼む厳粛な黙祷をはさんで進行した。

お話は「きのこって何?」、「きのこは菌糸でできている」と基本中の基本の説明からスタートし、「世界最大のきのこは?」、「きのこ恐竜はどっちが古いか?」などチョコちゃんも飛び入りしそうなクイズをまじえながら楽しく進んだ。「腐生と菌根」、「動物の糞から発生するきのこ」セクションあたりから話が俄然熱を帯び、「糞生菌の研究史」、「発表事実のデータベース搭載と公開」で佳境を迎えた。

同時に、標本と博物館の自然史学への貢献についてもご教示いただいた。

講座の実際 ①

連続講座〈21世紀のダーウィンになろう!〉

本講座は生物科学と地球科学に時間軸を取り入れ、年間12回にわたって自然史総体を学ぶ月例の連続講座として設定されている。その最終回の2018年3月11日には、連続講座の仕上げにふさわしく〈観察して発見した事実の記録とその報告および公開の方法〉をテーマとして、千葉県立中央博物館植物学研究科長の吹春俊光博士をお招きして「『きのこのこ』を通して調べたことの大切さを考える」ことを学んだ(図5と6)。

小学生たちはいきいきと活動し、21世紀のダーウィンになる道すじをリアルに見つけたと思われた。

講座の実際 ②

出前講座〈いきもの探し〉

当館では小学校そのほかの教育施設の要求に応じて出前講座も実施している。0月3日に区立小学校の「すくすくスクール」に出かけてのこ講座を実施した。すくすくスクールとは江戸川区立小学校で施行されている学童保育の独特の発展形である。独特の制度であっても当然放課後の「有閑児童」が対象となるので、科学性を重んじながら遊びも考慮した講座を組み立てることにした。

校舎裏を流れる溝とその周辺に棲む動物の採集と観察がメインの講座であったが、前調査のときに同所にテングタケがはえていたことをきっかけとして急遽きのこの展示を並置することにした。とはいうものの現地では採集しようにも種数・量ともに乏しいので、事前にきのこの宝庫である葛西臨海公園でテングタケ、ヤマドリタケ属、ベニタケ属など約20種を調達した。

児童たちにとってこの手の野外活動はフレッシュらしく、講師の指導によく耳をかたむけて熱心に採集していた(図7と8)。

講座の実際 ③

いろはぐみ〈きのこ どんな子 ふしぎな子〉

区立小学校では水曜日は教員研修などに充てられ、半日で授業が終わるので、当館では水曜日の午後にも講座を設定して児童を吸収している。おもに低学年をターゲットにしているため初歩の意を込めて「いろはぐみ」と称している。

10月10日に、埼玉県秩父地方の里山「関八州見晴台」と葛西臨海公園で採集したきの



図7 野外活動のようす ①



図8 野外活動のようす ②

こを使って入門講座を行った。関連図書の読み聞かせを効果的にまじえ、楽しい雰囲気でのこについての知識の浸透を図った(図9と10)。

約20種のきのこのうちホコリタケはパフパフと噴き出す胞子の煙で、ニオイワチチタケはスパイシーな芳香で人気があった。講

座を振りかえって「帰ったらカレーが食べたくなりました」と感想を書いた子が続出したほどであった。



図9 きのこ本の読み聞かせ



図10 きのこに群がる

成果

きのこは生態系のジグソーパズルに不可欠なピースであり、まさに現代的な課題を含む。このように重要ではあるが学校ではなぜか扱わない素材をそのままにしておくのはもったいない限りである。われわれは、小学生のレベルと関心に適合するようアレンジしながらきのこの教材化を図り、〈きのここと小学生をつなぐ活動〉を实践して、次代を担う子どもたちに食菌や毒菌を問わずきのこの世界への興味を喚起することができた。これは、保護者の関心が今なお「怪しいきのこから我が子をいかに遠ざけるか」に傾いている現状を克服する手がかりになるのではないだろうか。ひいてはこれらきのこ講座が、受講者が成長したときに生物の世界全体を見渡せるようなステップになることを願いたい。

江戸川区子ども未来館

<http://www.city.edogawa.tokyo.jp/miraikan/>



生態園トピックス展 キツネノヤリタケ -生態園から新産地報告-

平成31年3月19日(火) ~ 5月26日(日)

千葉県立中央博物館 生態園 オリエンテーションハウス

※ 毎週月曜日、5月7日は休館

(ただし4月29日、5月6日は開館) 入場無料

「キツネノヤリタケ」は、千葉県初報告となる、生態園で発見されたキノコです。このキノコは桑の実から生えます。このほか、いろいろな「もの」から生えるキノコも紹介します。

- ・千葉県で初記録！
-生態園で見つかったキツネノヤリタケとキツネノワン-
- ・生態園で見られる「キツネ」のつく生きもの
- ・〇〇から生える不思議なきのこ
- ・キツネノヤリタケとキツネノワンを観察しよう

